

元五輪選手からマット運動学ぶ 紙屋小で「挑戦する心」育む授業

1月21日、紙屋小学校で4～6年生を対象に、元オリンピック体操選手の大島杏子さんおおしまきょうこを講師に迎えた体育の特別授業が行われました。これは国のアスリート派遣授業の一環で、マット運動を通じてスポーツの楽しさや挑戦する心を育むのが狙いです。児童らは、前転や後転などの手ほどきを受け、楽しみながら技の習得に挑みました。



はまさきゆうわ 濱崎悠和さん(5年)は「教え方が上手で、すぐに上達できて楽しかった。習ったことを今後も意識しながら取り組んでいきたい」と笑顔で話しました

可憐なエヒメアヤメを紙で再現 守り育てる会が幸ヶ丘小で授業

1月20日、国の天然記念物であるエヒメアヤメ自生南限地帯(南西方)について学ぶ授業が幸ヶ丘小学校で開かれました。「守り育てる会」と市教委が郷土愛醸成を目的に企画したもの。児童は松本広樹会長まつもとひろきから自生地の特性を学んだ後、紙や針金を使った造花作りに挑戦。高さ10センチほどの花を完成させ、地域の貴重な植物への理解を深めました。



ほんぶみづな 本部未羽菜さん(6年)は「名前は知っているけど実際に見たことがない。今年に家族で見に行き、できることがあれば活動も手伝いたい」と話しました

人権擁護委員に新たに委嘱されました

人権擁護委員として、牟田昭三さんむたしょうぞうが法務大臣から委嘱されました。任期は令和10年12月31日までです。現在、市内には9人の人権擁護委員がいます。毎月「人権・行政・なやみごと相談」を開催していますので気軽に相談ください。(今月の相談日は25日に記載)



仕事の楽しさややりがいを学ぶ 東方小学校でお仕事博覧会を開催

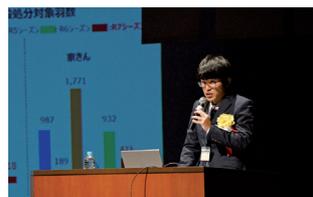
1月29日、東方小学校で4～6年生を対象に、「お仕事博覧会」が開かれました。さまざまな仕事に触れることで、働くことの楽しさや意義を学んでもらうことを目的に市内の消防士や薬剤師、美容師など計10の職種が体験ブースを設置。児童たちは、興味のある仕事を実際に体験し、その魅力ややりがいを肌で感じていました。



なぐさまりこ 富永璃子さん(6年)は「看護師ブースでけがの消毒を体験しました。これまで体験したことがなかったので良い経験になりました」と話しました

地域畜産の発展へ振興大会で結束誓う

2月3日、市畜産振興大会が文化会館で開催されました。資材高騰や出荷頭数減少などの難局を関係者一丸で乗り越えようと、畜産農家ら約400人が参加。小林市場の魅力や家畜伝染病への防疫対策について知識を深め、地域畜産の発展へ結束を誓いました。



通称は「いきものがかり」 若手畜産農家が新組織を立ち上げ

2月3日、牛や豚など畜種の垣根を越えて若手農家が連携する「小林市畜産青年部連絡協議会」（通称・いきものがかり）が発足しました。畜種を超えた組織の立ち上げは県内でも珍しく、農家やJA・市職員ら約130人で構成。資材高騰や担い手不足などの課題に対し、情報共有などで結束し、持続可能な地域畜産の振興を目指します。



おつかせいや
鬼塚成次会長は「畜種の異なる仲間が集まることで、新しい風も入ってくる。積極的に交流を深め、畜産を盛り上げていきたい」と意気込みました

須木出身の詩人・黒木清次を学ぶ 次男が語る父の創作と横顔

2月3日、旧須木村出身の詩人で小説家、故・黒木清次さんの足跡を学ぶ講演会が市立図書館で開催されました。次男の榕さんによる資料寄贈を機に同館が企画したもので、須木中生ら約80人が参加。父の創作活動や交友関係を説明した榕さんは、「人との交流を深め、成長につなげてほしい」と次世代を担う生徒へ熱いエールを送りました。



講演会で父・清次さんの資料や逸話を紹介する次男の榕さん。須木中生らは郷土の先輩の生き方に触れ、メモを取りながら熱心に話を聞いていました

地域学校協働活動で県教育長表彰 大浦さんと岩戸神楽保存会が報告

1月30日、「地域学校協働活動」の県教育長表彰を受けた大浦正人（写真㉔）さんと岩戸神楽保存会（田原治男会長）（写真㉕）が、教育長に受賞を報告しました。大浦さんは11年に及ぶ地域防災活動の取り組み、同会は20年にわたる神楽伝承を通じた郷土愛の醸成が評価されました。大浦さんは「仲間との活動が励みになる」と話しました。



この表彰は、地域と学校が協働し、次代を担う子供の成長を支える活動で特に取り組みが優れ、他の模範となる個人や団体の功績をたたえるものです

高校生16人が議員を体験 新たな視点で観光や医療など提案

2月3日、高校生が議員となり、市議会議員が答弁を行う「高校生議会」が市議会議場で開催されました。これは若者の政治への関心を高め、新たな発想を政策立案につなげようと市議会が企画したもの。市内3校から計16人が登壇し、観光振興や地域医療、空き家活用など、若者ならではの視点で鋭い質問や提案を投げかけました。



高校生は緊張した様子を見せながらも、バーチャル移住やダンスイベント開催など、柔軟な発想を披露しました（議会の様子は後日動画で公開されます）

機械化や担い手確保の取り組み評価 県農産園芸表彰の2者が喜び報告

2月9日、県農産園芸特産物総合表彰を受けた有水誠さんとJAみやざきこばやしマンゴー部会が市長に受賞を報告しました。有水さんはスマート農業などによるブロッコリーの安定生産、同部会は環境制御技術の導入や第三者承継による担い手確保が高く評価されました。有水さんは「地域を引っ張る存在になりたい」と決意を述べました。



受賞報告した有水さん（写真⑤）と同部会の松田泰一部会長（写真⑥）。産地振興に尽力し、農業経営の向上と地域発展への貢献がたたえられました

透き通る歌声で「世界の旅」へ ソプラノ中嶋彰子さんが公演

2月8日、市文化会館の自主文化事業「中嶋彰子ソプラノ・リサイタル」を同館で開きました。ウィーンを拠点とする中嶋さんとピアノの齊藤雅昭さんが、「世界の歌の旅」をテーマに各国の名曲を披露。都内など遠方からもファンが訪れ、世界クラスの透き通る歌声と繊細なピアノが織りなす至福のハーモニーに観客は魅了されました。



「音楽で世界を旅しているような感覚を届けたい」と中嶋さん自身が選曲した各曲の数々に、「鳥肌が立った」「別次元」と来場者も絶賛していました

こばやし福祉推進大会で功労表彰 金婚夫婦や米寿会員の長寿も祝う

2月6日、誰もが安心して暮らせる「住みよい福祉のまちづくり」を目指す「こばやし福祉推進大会」を開きました。福祉功労者を表彰したほか、金婚夫婦44組と友愛クラブ米寿会員84人を祝福。園児の歌声で幕を開け、小林女声コーラスや小林西高吹奏楽部の演奏が花を添えました。会場は温かい拍手に包まれ、互いの健康などを願いました。



金婚夫婦や米寿会員らを代表し、謝辞を述べる金婚夫婦の前田喜輝さんと妻の千代子さん。会場からは長年の歩みをたたえる温かい拍手が送られました

ALTらと英語でクッキング交流 中高生が食文化通じ異文化に触れる

2月14日、食をテーマにした国際交流イベント「WE ARE WHAT WE EAT」を開催しました。多文化共生を学ぼうと市内の中高生7人が参加。ALTや国際交流員と英語でコミュニケーションを取りながら各国の料理を調理・試食しました。生徒らは食文化の違いを肌で感じ、英語でのプレゼン発表を通じて異文化理解を深めました。



調理前のゲームで打ち解けた後、協力して料理に挑戦。地元の食文化も見つめ直しながら、異国の香り漂う会場で五感を使って異文化を味わいました